

# 日本語って難しい

とみた たまよ  
富田 珠代

●自動車総連・副事務局長

小さい時の言葉遊びで、一つの文書で二つの意味にとれる文章を考えたことはありませんか？  
例えば、「ここではきものをぬいでください」

この文章は句読点の打ち方で、

「ここで、はきものをぬいでください」（ここで、履物を脱いでください）

「ここでは、きものをぬいでください」（ここでは、着物を脱いでください）

の二つの意味になります。自分は履物のことを言っているのに、相手が着物と受け取ったら、ちょっと大変ですよ。

しかも、日本語には、同じ発音、同じ文字なのに、意味の違うものも沢山あります。例えば、「はな（花）・はな（鼻）」「あし（足）、あし（葦）」などなど。

さらに、日本語は一つのようなのですが、各都道府県によって方言があるので、方言を一つの言語と数えたら大変な数になります。ちなみに、ネットの全国方言辞典（出版：三省堂）で、「暖かい」を検索してみると、「ぬくとい（岐阜、埼玉）」、「ぬっか（福岡）」、「やぜくるしか（熊本）」など複数の言葉が検索されました。

これらを組み合わせ、句読点にも注意しながら、文章を作り、発音にも注意して、相手と会話する。日本語って本当に複雑で難しい言葉です。

私の出身企業が『ダイバーシティ』に力をいれている関係で、その考え方を紹介する機会をいただくことがあります。出身企業における『ダイバーシティ』とは、年齢、性別、学歴、人種、ライフスタイルなどの違い（多様性）を認識し、差別をなくし、機会を均等にすること

で、個々人が個性を発揮し、大きなシナジー効果を生み出すことを期待する施策です。

この考え方を理解いただく一例で、「赤くて丸いもの」を皆さんに思い浮かべていただいて、それぞれの答えを聞いていくのですが、リンゴ、トマト、風船をはじめ、意外なところでは、うめぼし、日の丸、トナカイの赤鼻など、様々な答えを聞いてきました。

この質問の意図するところは、誰もが思い浮かべられる事柄でも、人によって答えは様々で、その違いは、年齢や性別等によって大別されるものではないと感じていただく事にありますが、ふと、自分自身に置き換えた時、「赤くて丸いものはリンゴである」と決めつけて相手と話してはいないだろうかと思うことがあります。労働組合の役員として、様々な場面で相談を受ける機会がありますが、果たして、本当に相手の立場に立って聴けているのか、相談の真意をきちんと汲み取れているのか、相手の言葉を別の意味で理解していないか。振り返ってみると、不安なことばかりです。

土曜日の朝のトーク番組で、「サワコの朝」という番組があります。エッセイストの阿川佐和子さんが司会をされているのですが、ゲストの方の意外な一面や本音を聞き出すのが本当に上手で、まさに聞き上手なのですが、その秘訣の一つは、わからない自分を務めて隠さないようにする事だそうです。未熟な自分を認め、相手の話と自分の理解があっているか、様々な方法で確認するそうですが、いつもうまく行く事ばかりではなく、「人生、まさに日々修行」

その言葉に、思わず納得です。